



第92回川崎メーデーに支部から5名参加 スタンディング&トークで市民にアピール



日本共産党の畑野衆院議員、君嶋県議員、片柳・後藤両川崎市議もメーデー参加

全労連・県労連・春闘共闘・民主団体などが主催する第92回メーデーは本日全国各地で開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大がつづくなかで、ほとんどの地域メーデーは式典やデモ行進を自粛、Webやスタンディングなどによる開催を余儀なくされました。

しかし、働くものの雇用や権利、平和や民主主義の発展などをめざし全世界の労働者が団結と連帯をアピールする歴史的な行動に多くの仲間が結集しました。

神奈川県南支部は、川崎労連や民主団体などが主催しJR川崎駅前で行われた第92回川崎メーデー（スタンディング&トーク行動）に結集し佐藤委員長、小島副委員長、大島書記長、金崎書記次長、赤羽の5名が参加しました。

午前11時にスタートし12時までの短時間で開催した川崎メーデーには全体で50名が参加、各組織・団体から訴えや決意表明が行われ、“腹話術の会きずな”の仲間が人形を操って行ったユーモラスな発言には通行中の市民も注目していました。神奈川県南支部からはトラック労働者の状態改善や労働組合・建交労への加盟をアピールしました。

ちなみに川崎は、川崎駅前メーデーの他にWebによるメーデーも開催しました。



内閣総理大臣 殿

唯一の戦争被爆国 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

いま世界では、核兵器禁止条約の発効から核兵器廃絶へとすすもう、という声があがっています。多くの国ぐにが被爆者の声に耳を傾け、「核兵器による安全」ではなく、「核兵器のない世界による安全」を選択し、核兵器禁止条約を支持し、参加しつづけます。

唯一の戦争被爆国である日本政府は、核兵器廃絶の先頭に立たなければなりません。

国内の世論調査でも、日本が核兵器禁止条約に参加すべきとの声は7割を超えています。日本政府がこの被爆者と国民の声に誠実に応えることを訴えます。

私は、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めます。

名 前	住 所	募 金

この署名は、2020年10月29日、被爆者をはじめ各界・各層の代表126氏のおよびかけによりスタートしました。日本政府に提出します。ご記入いただいた個人情報は、この要請目的以外には使用しません。

【取扱団体】

連絡先：署名事務局（原水爆禁止日本協議会）
〒113-8464 東京都文京区湯島 2-4-4
電話：03-5842-6031